

世界中の開拓者たち

アメリカ領サモア

「神は『そのとおり』と言われた」

レバアイア・レバオは深刻な健康上の問題を抱えていました。2015年に両目に腫れ物ができ、宣教師が神権の祝福を授けた後、治りました。宣教師は彼女と一緒にモルモン書を読み始めました。

島の小さな地域社会に暮らす人々の中には、レバオが新しい宗教について考えているのを見て不愉快に思う人たちもいて、彼女の努力をあざけり、ばかにしました。それでも、彼女は固い意志を持ち続け、間もなくバプテスマを受けました。夫のツイと3人の子供も間もなく彼女に次いで改宗し、後にレバオは支部で扶助協会会長として奉仕しました。彼女の献身の模範に影響を受けた人たちは、彼女をオロセガの教会の核だと言います。

韓国

「わたしはもう決して真の冷たさは感じないでしょう」

チェ・ドンスルは長老派の牧師で、信徒たちを末日聖徒イエス・キリスト教会から守る責任を感じていました。しかし宣教師と会うようになり、頭を悩ませていた教義上の問題にはっきりした答えを見いだしました。新たな信念は職を変えることを要求し、当時長老派教会の会長を務めていた父親との関係を危うくすることを分かっていました。

ドンスルは、漢江でバプテスマを受けるという選択をしました。「自分のバプテスマを、できるかぎりイエス・キリストと同じような経験にしたかったのです」と説明しました。1981年9月5日の霧に包まれた朝、漢江の水は冷たかったのですが、水から上がったとき、ドンスルは内なる温かさについて述べました。「今、わたしは神のまことの教会に属しています。もう決して真の冷たさは感じないでしょう。」2週間後、妻と二人の息子もバプテスマを受けました。今回は暖かい集会所で行われました。教会に加わることで、ドンスルと家族の人生は楽にはなりませんでしたが、新たな祝福を受けることを可能にしました。「バプテスマを受けた後の……迫害と苦しみは、言葉に表せません」とドンスルは言います。「〔教会に入る〕過程で多くを失いましたが、わたしたちは夢にも思わなかったほど多くを得ました。」

コートジボワール

「命と幸福の扉」

リディ・ゼボ・バヒは、両親とも亡くなったとき、実家で暮らしていた最後の子供でした。両親を失ったことにより、重い鬱状態になりました。甥のフェート・ナデージュが末日聖徒イエス・キリスト教会を紹介しました。

リディは初めて教会に行ったとき、扶助協会と若い女性の組織の姉妹たちから大きな愛を感じました。鬱の時期には読書をやめていましたが、モルモン書を研究する中で、再び集中できるようになったことに気づきました。1995年11月18日にバプテスマを受けました。

間もなく、扶助協会や若い女性の組織で奉仕することによって、示された愛を返す機会を得ました。また、支部宣教師として奉仕し、自分が最近見つけたのと同じ仲間との交わりと平安を見いだすように人々を招きました。「これらの召しはすべてわたしを強め、霊的にも精神的にも進歩する助けになりました」とリディは言っています。

リディはコンゴ民主共和国キンシャサ伝道部で奉仕した最初の姉妹宣教師の一人となりました。

末日聖徒

イエス・キリスト
教会